

# 高山の文化

No.125 2011.5.27 Culture in Takayama

社団法人 高山市文化協会発行

高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel. 34-6550 Fax. 34-6877  
 メールアドレス ● mail@takayama-bunka.org  
 ホームページアドレス ● http://www.takayama-bunka.org  
 (文化会館の催し物案内はこのホームページをご覧ください。)



新しく完成した「こくふ交流センター」(さくらホール)

## 国府町の新しいホールで 開館記念コンサートを開催

### 市制施行75周年記念事業

#### 「莊村清志&錦織健 デュオコンサート」

国府町のJR国府駅前で建設が進められていた新しい施設「こくふ交流センター」がこのほど完成し、七月にオープンする予定です。

この施設には、六百席のホール(愛称「さくらホール」)をはじめ、公民館、支

所のほか、蔵書数約二万五千冊を備えた図書館が入ります。「さくらホール」は優れた音響効果と広いステージが特徴で、演奏会などの催しに適しています。

この新しいホールで、市制施行七十五周年を記念した高



莊村清志



錦織健

## 高山文化フォーラム 芸能と文化展 2011

期日 6月4日(土)、5日(日)  
 場所 高山市民文化会館  
 テーマ 新年歌会始の勅題「葉」

### ◎芸能の部

- ・4日 午後6時開演 小ホール  
日本舞踊、長唄など11団体
- ・5日 午後1時開演 大ホール  
邦楽、バレエ、詩吟など10団体

### ◎文化展の部

- ・4日 午前9時30分～午後5時
- ・5日 午前9時30分～午後4時
- 2階 俳句、短歌、写真など
- 3階 華道、盆栽、飾り物、版画など
- 4階 フラワーアレンジメント、書道など



今年で十一回目を迎える「市民歴史散歩」は、四月にオープンした「飛騨高山まちの博物館」(上一之町・旧郷土館)で開催します。城下町の歴史やその中で育まれてきた美術工芸・伝統文化などについて、博物館学芸員の説明を受けながら館内を見学します。ご家族やご友人とともに、高山の歴史を学んでみませんか。

◆期日 六月十二日(日)



飛騨高山まちの博物館(中庭)

### 第11回 市民歴史散歩 「飛騨高山まちの博物館」 オープン記念見学会

6月12日開催

参加者募集

◆時間 午前10時～正午ころ(昼食後に解散)  
 ◆集合 午前九時五十分までに「飛騨高山まちの博物館」

◆申込方法 参加料六百元(昼食代・保険料込み)を添えて、高山市民文化会館窓口へ。

前へご集合ください。なるべく徒歩や自転車でお越しください。車の方は、空町(市図書館)駐車場をご利用の上、駐車券を博物館までご持参ください(日曜日のため混雑が予想されます)。

申込の受付は、五月二十八日(土)午前九時から、定員(八十名)になり次第締め切ります。なお、キャンセルされても参加料の返金はいたしませんのでご注意ください。

### 初心者入門講座 予告案内

何か趣味を持ちたい、習いごとをしたい、しかし、ペテランの方々ばかりの会へ入るのは気がひける...そういう方のために、やさしく手ほどきをする初心者入門講座をこの秋より開催します。

八月発行の文化協会広報で詳しくお知らせします。会場は文化会館で原則無料です。ご期待ください。

開催予定の講座は次のとおりです。

- 俳句 ○短歌 ○演劇
- 考古学 ○詩吟 ○めでた
- 古文書解説 ○絵画の基礎
- 版画 ○民謡舞踊
- 日本舞踊 ○飛騨民謡三味線



また、同会場では、今年の干支「卯」と歌会始の勅題「葉」をテーマにした飾り物

### 満開の桜の下で... 「道伝えの日」 茶会と飾り物展

城山にある高山市文化伝承館において、四月二十三日(土)、二十四日(日)に、皇

展の優秀作品も併せて展示しました。

二日間で延べ五百人以上の方が来場され、ちょうど見ごろを迎えた満開の桜を愛でながら、一服を楽しんでいました。



チケット残りわずか!

ひとよ Tour 2011  
**一青窈 頼づえ**  
 ～夕方早く私を尋ねて～  
 2011年6月1日(水) 開場18:30/開演19:00  
 高山市民文化会館 大ホール  
 入場料 [全席指定] ¥5,900 高山市文化芸術鑑賞事業

◆飛騨吟剣詩舞連合会  
 第三十四回発表会  
 ・日時/六月二十六日(日)  
 午前九時三十分～

◆豊飛会五十周年大会  
 ・日時/九月十七日(土)  
 午後〇時三十分～四時  
 ・会場/高山市民文化会館 大ホール  
 ・入場料/無料

### 「岡目一日」

ノーベル賞の白川英樹博士の父・白川初太郎医師の「文字とことばをやさしくするために」という本をご存じでしょうか?

昔は「おなら」が医学用語でフラーツで「扶羅都斯」と書き、「むねやけ」を「呑酸嘈囉」などと書き、やたら難しい字になるのを嘆いておられる。息子の英樹博士は中学生の時、その「扶羅都斯」が燃えるとして、実験しようとした。

文章の中に漢字が多いと、全体に威厳があり重々しくなる。仮名に対して漢字を真名と呼ぶことがある。漢字の方が上という意識が我々の心のどこかで生き続けているのかも知れない。官庁用語には漢字が多く、お経は全部。最近では代わりやたらと片仮名が多くなっている。英語などを日本語の中に取り入れるからで、パソコン関係の文章などに特に多い。

昔漢字今英語。文字や言葉は国力や文化力と大いに関係がある。かつて植民地の人々は宗主国の文字を強制された。日本の文字や言葉はこれからどうなるのか気になるところである。飛騨弁も：  
 (ガンモン毛筆)